

本草図譜卷之六十六目錄

果部 山果類

枇杷	一種	一種	一種	一種	一種
楊梅	三種	一種	一種	一種	一種
櫻桃	五	山嬰桃	七		
一種	八	銀杏	九		
胡桃	土	山胡桃			
一種	十二	一種			



一種 かみきんかん 金棗  
 牛孺金柑 園史  
 樹葉前條と同  
 実長ふく葉の如く  
 百部





本草図譜  
卷之六  
目録

一種  
廿  
大葉標  
名紙  
か  
己

本草図譜  
卷之六  
目録

一種	一種	枹 解集 あ あ	椽 實 つ ら	鉤 栗 あ ら	苦 楮 つ ら	一種	一種
廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿
一種	一種	一種	椽 實 あ ら	一種	一種	楮 子 つ ら	榛 も ら
廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿





本草圖譜卷之六十六

東都 岩崎常正 著  
男 岩崎信正  
門人 小山廣孝 校

果部 山果類

枇杷

びんば 和名

蠟兒 典籍 便覧

眞雪

名物方言 花の名

人家多く栽せ葉ハ栗ハ似て厚く背ハ黄也冬凋まは冬月總をわけて五瓣黄白色の花を開き夏月実熟れば黄色なりて正円指の太味はす 中核あり黒褐色なりて金光あり一枝のもの二三枚のものあり凡て核小なりて肉多きもの上品也此核を和の方書ハ巴実と名く本経逢原ハ其核大寒而伐肝脾と云云花曆百詠ハ定凡珠と云ふの核を以て 昆布あり人形のものも造り 食料ハ或ハ岩附より出る物核小く肉多し

本草図譜 卷之六十六

本草図譜 卷之六十六





本草図譜  
卷之六  
枇杷



枇杷

本草図譜  
卷之六  
枇杷





本草図譜 卷之十四

一種

其産而小産者  
物実大なりて柑  
の如く味は甚  
甘美上品之時  
珍の説ふ大者  
如鶏子と云  
これん



楊梅

ヤチモ、

楊家果

異名

楊氏子

龍晴

火實

異名

アルビユニスホーム荷

暖地不産は豆品未澤八幡野又上総房品小出つ樹高二三次嫩芽の葉ハ  
鋸齒ありて楸の葉に似て小く老樹葉ハ鋸齒有瑞香葉に似て狭冬凋  
まれ春月葉の間ハ黄白色の小花を生れ別の処ハ實を生り形覆盆子に似  
肌細く指頭の大きさにて正田夏月熟し紫紅色味の酸く甘く炊豆に及ば  
と云楊梅皮ハヤマトの皮に俗ハカトとも云ふきとも云漆家にて褐色  
を染る不用也

本草図譜 卷之十四





本草図譜  
卷之六  
三



楊梅

本草図譜  
卷之六





本草図譜 卷之二十一

一種 ちろも

水精楊梅

上雜俎

泉涌目根及び河  
所不実白色を  
ものあり又豆及ふ  
も何と云甚麻と  
釋名不時珍此戸  
録を引て白楊梅  
為聖僧といふれ  
り



櫻桃

やまがむめ

やまがら京

やうきん 和

ツルハさくらんどの

和名

朱菜

証類本草

英桃 群芳譜

朱英 秘傳花鏡

烏竜芽 呂祖全書

楔

本草和名引叙藥性

麥英 上門

麥桃

本草和名引叙名花

凡唐山六種類多く和産ハ少シ樹高さ四五尺春月葉不先了花を同く五  
瓣淡紅色形桃花小似て小く蕾三四一處ハ簇成後了葉を生じ櫻の葉小似  
て小く厚く微く毛あり五六月実熟ハ郁李小似り尖り紅色味以酸く中  
小き核あり又郁李小似り尖れり

本草図譜 卷之二十一





本草  
図譜

卷之六

五



櫻  
桃



本草  
図譜

卷之六

五





本草圖譜

卷之六

山嬰桃

棣子

急就

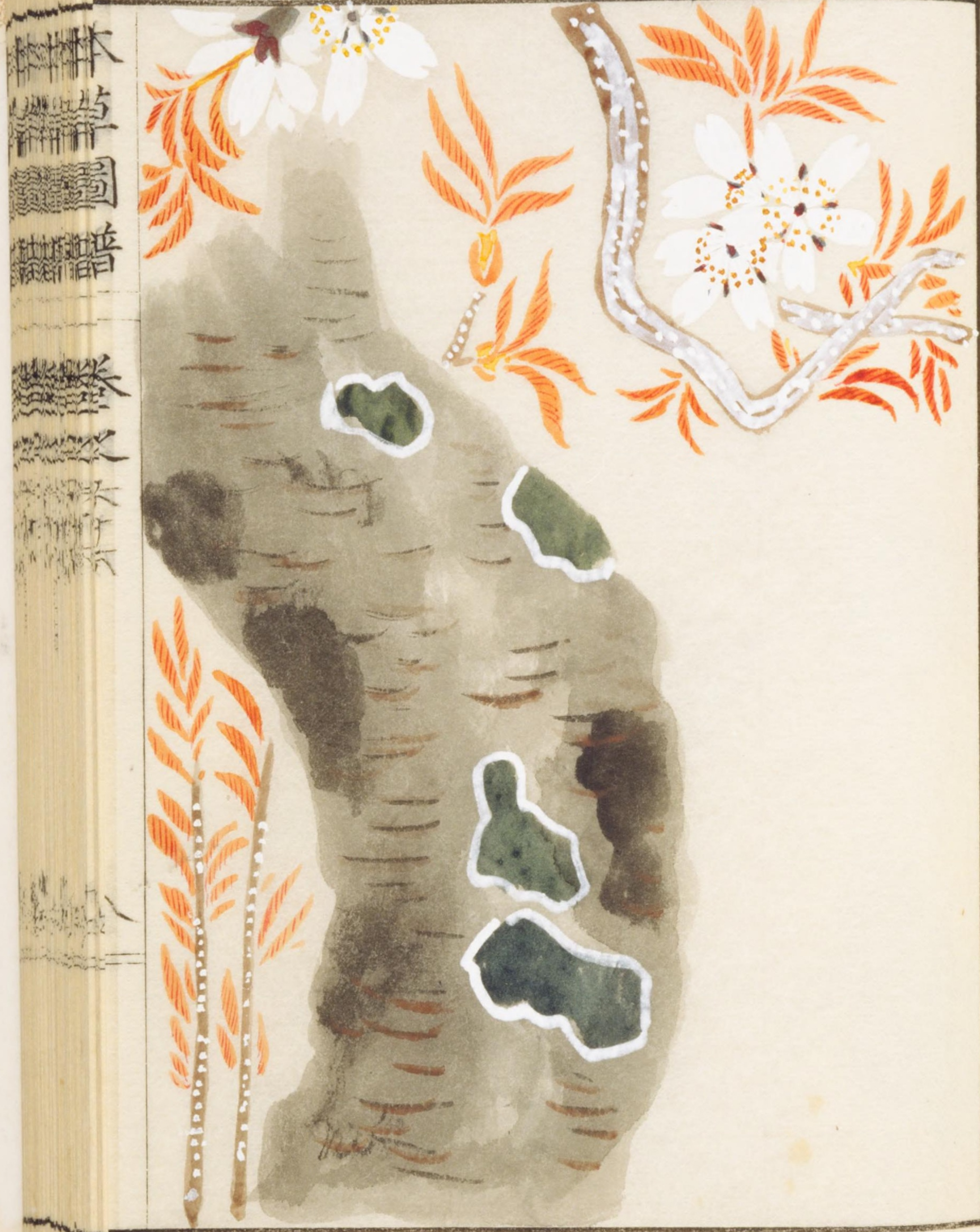
あつたまきくら

てうとぎくら 江

野州日光山武所上野信所水曾山中及び上総房州等の高山の深き小自生樹二三丈  
 葉ハ櫻桃の如ク細鋸齒あり樹皮むらむら如ク花亦彼岸小開ク五瓣水紅色  
 大ニ三分花の莖長く葉の形丁香小似たり久名つく実熟して紅紫色大ニ南燭の如  
 く味ハ酸甘一房所の産ハ花大なりて之分許りありて紅色美し櫻桃ハ人家小有て  
 深山小あり山嬰桃ハ人家小あり深山小自生者少クハ山嬰桃の名あり此類ハ多ク  
 より千辨の物を生し今多く花を称せりや名さんち小至る多し此類數百種ありて  
 遠藥故ニ不載也







一種  
ヤ手  
さくら

大和芳野名産あり深山ハハ  
 卯ノ葉ハ李ノ似テ溜ク花ハ三  
 月開ク草辨水紅色大ニ梅花  
 の如ク其實櫻桃ノ似テ円ク莖  
 長シ塩蔵シ食之れハ酒ノ酔  
 解ル

本草図譜

卷之六

七







本草図譜  
卷之六  
杏



銀杏  
いちやう  
杏の名

杏仁  
きんらん  
杏の名即ち銀杏の唐音也

白杏  
白眼  
仁杏  
靈眼  
平仲木  
火桑木  
公孫樹  
樹名

事物異名以上実名  
通正字  
通雅上

共上

本草図譜  
卷之六





本草図譜

卷二十一

人家多くあり樹高く聳へ数丈に至り葉の形鴨脚の如く春月一寸許りの穂を生し淡緑色の小花を積葉は秋月実熟れ大杏の如く黄色脂液多く肉中へ核あり白色ならず核或は三稜あり核中小仁あり白色を炙り時ハ緑色不變り果と分ちつゝ老も樹雖雄あり雄多しこの実を結り難きもの実を結ぶ老樹の枝の本より乳の如き物を生じ長き物丈命に至り土中小至れ八根とあり

胡桃

くろく

又又ム

蝦夷  
實名

子シロ上

タクナム

朝鮮

又キスイユ克蘭又羅

核果

車物  
異名

蝦蟇

柳邪代  
綿仁の如

阿乞朝囉訶 播囉師木 上同

薬用ハ朝鮮人多し一名唐人多しと云を用ふへし樹高大葉ハ胡桃似て浅き鋸齒あり又漆の葉に似て鋸齒あり七葉九葉一莖に對生り枝の梢ハ夏月花あり粟の花に似て下垂れ後実を結ぶ桃に似て緑色硬く中小核あり山胡桃より梗薄く皺少く微乾りて殼を去るときハ碎きカビに不刻あり牡丹花の如く味ハ尋常のくろくと同し

本草  
圖譜  
卷二十一





本草図譜  
卷之六



胡桃  
ろろ

本草図譜  
卷之六

山胡桃  
解集  
ろろ  
山核桃  
八国  
通志

人家多く裁かるもの深の葉不似て潤く大に微し黄褐色の毛あり板硬く鍛あり一尖あり  
碎け難く一種からせと云あり越後の産ん板自ら開けて鳥の口を同じし如し故に名く

一種  
おめろろ  
めろろ  
而加

板薄く丁鍛少あり中の仁採り易く山胡桃の中より仁全く採れ馬鞍の形如く  
故に上品と名は







本草図譜 卷之九





本草図譜

榛



貞嘉野麻郡大塩村  
穴澤権六の園中の  
産物故小名く核の  
小やて歴口榛と不  
凡(一) 甲加中此  
種あり

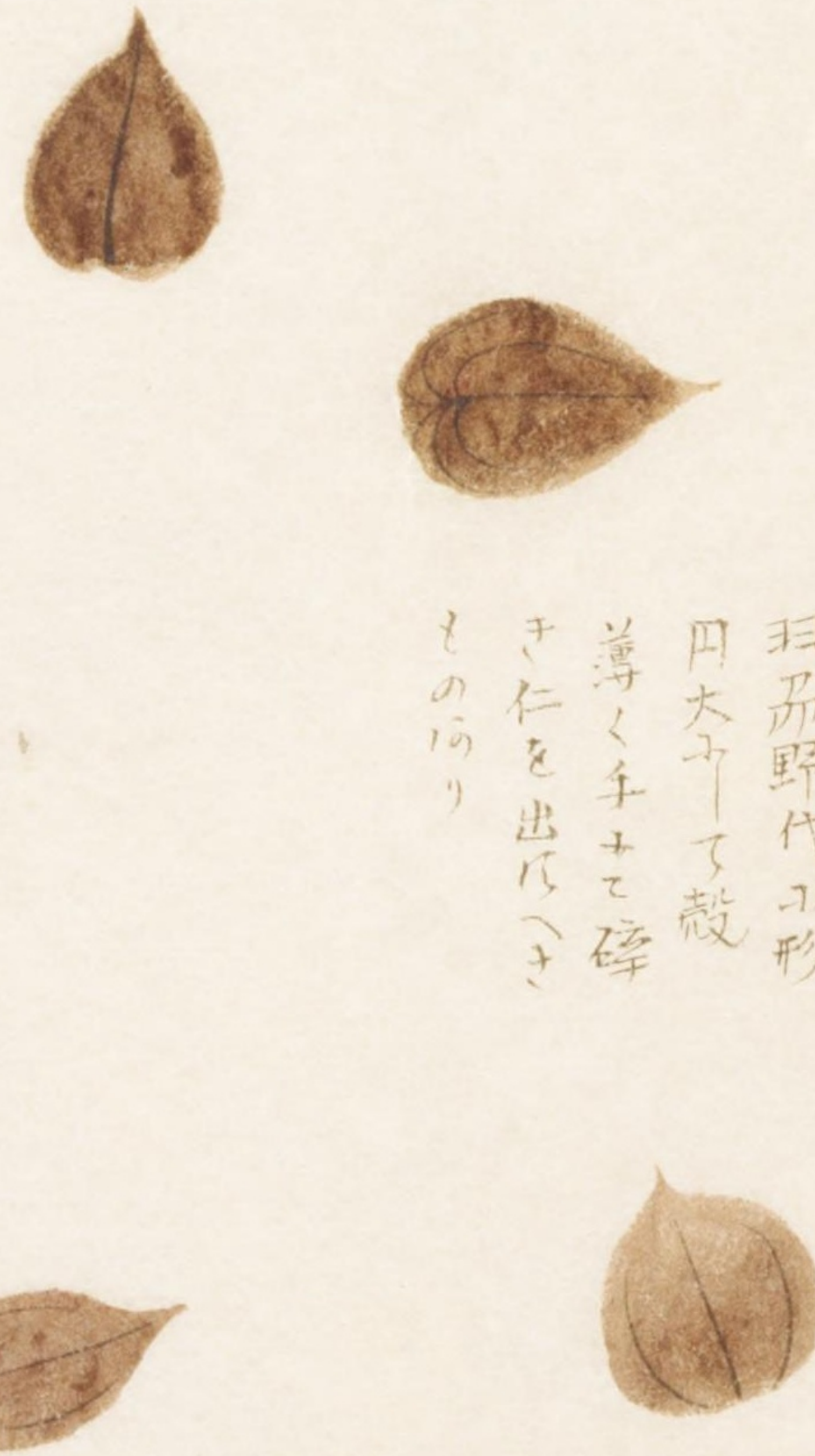
一種

権六々々

一種

まろくろ

羽野野代小形  
円大やて殻  
薄く手と碎  
子仁と出(一)さ  
ものり



本草図譜

卷之六十六

十三







一種

奥丹松前辺其餘地回不ま、あり葉ハ楡ハ似る、微く毛有り樹大余り及ふ花ハ前条と同く  
唯実の殻長ヤ一丁角の如く一房三五顆を結ぶ其實内ふて実りあり味ハ前条と同く

庭陰多く栽セ小ホヤテ叢生葉ハ楡ハ似て、潤く大く周圍小大ハの鋸齒ありこと  
虫の食たる不似たり、肌紋理深く嫩葉ハ紫斑あり冬月枝の間ハ花を生れ穂ハ白く黄  
色麗尾の如く春月実を結ぶ故あり、枝中の実柯樹ハの実ハ似て円く矢長ハ香美なり

つゝをーハミ尾 つかをーハミ

榛

榛 栗 通 任 城 果  
和名 鈔 名物 法言  
女 眞 上 同

本草図譜

卷之六

十三





本草図譜

卷之六十六



本草図譜

卷之六十六

十四

楮子

かしのこ

せうぶり

かしのこ

圓楮

物理小識

諸國山野並に庭際にも栽や種類甚多く材は白色に微く赤みあり若楮より  
柔なり葉ハ茶色似く肥大し鍛わく硬く鋸齒粗く裏淡綠色初夏葉の間は花あり  
穂をなして栗花の如く長き二寸許り黄白色別の処は実を結ぶ柯の實に似て肥大し  
初は青く熟すれば黄褐色実の本は帯白く形碗の如し實の味は澁し





本草図譜

卷之六



苦楮

つるがし

一種

あかあか

あかあかの葉は似たり  
あかあかの葉は似たり

龍

柏芽

枚荒  
本草

あかあかの内より葉は鋸齒ありて楸葉に似たり物なり其外小葉長葉其類  
甚多し

苦楮

解集

つるがし

此茶はあかあかの実を云上品なり葉はあかあかの葉より潤く厚く堅くして  
鋸齒あり四時潤まり初夏葉の間は花を開く栗花に似て細く短く実ハ逆  
実の大きかりて木は葉あり碗の如く横に助あり食用及此枝赤色なりて  
堅く鉄炮の莖車の齒並に諸器を作す

本草図譜

卷之六



本草圖譜

卷之六

十九

一種  
あふあ



鉤栗

あふあ

麩

楮

集解

あふあの一の材とあして白色若楮より柔之葉柯樹に似て鋸齒深きあり浅きあり葉小狭き潤きあり葉の背白色又ハ黄色あふあは淡緑色の物あり春月葉を生じ夏月早晩あり嫩葉白色の物紫色の物あり実より夏月より一あふあは四月花あり栗の花に似て穂細く短く醒気あり実ハ若楮と同一く其蒂も又同一味ハ苦く淡し

一種

いちいあ

尾外勢外ホ小あり葉細葉のかに似て鋸齒深く背並ハ並小黄褐毛あり実もかに似て円し

本草圖譜

卷之六

十九





本草図譜

卷之六

七



いちのか

本草図譜

卷之六

七



鉤栗

あまのり





本草図譜



赤糲木

証類本草  
以上樹名

栲  
上曰

栲  
雅通

黄栗

物理小識以  
上実の名

櫟  
上曰

椽栗  
雅通

うらび  
根以  
上本名

エイケボーム  
和蘭



椽實

本草圖譜 卷之六



つる  
和名釘  
本草和名

いんげん  
江  
いんげん  
上曰  
上州

あだんご  
信州  
上実名  
くぬぎ

かき  
江  
あ  
曰名  
まき  
備  
中

うつき  
椽  
あま  
和  
又





本草図譜

卷之六

山野不多、高さ二丈許り葉ハ栗ニ似て頗る短く硬く鋸齒あり樹  
ハ雌雄あり雄多し夏の夏月葉の間ハ穂を下垂ル栗の花ニ似て瘠  
たり雌ハ枝の間ハ実を結ぶ又栗の子ニ似て細長く本ハ髓あり而  
そよめのとすとよふこの樹皮を和方書ハ土骨皮門皮國皮とも云  
り此樹の炭を池田炭と云又薪ハよろし

榲桲

あかしのこ  
あか  
以下  
本名  
あか  
あか  
あか

山野不多、裁て炭薪とありあつたをくわし己等各類して  
大同小異あり葉ハかゝる己に似て微く薄く小く秋の末ハ至  
り紅黄色ハあり落葉ハ初夏葉の間ハ花を開く栗の花  
ニ似て細く短く従て実を結ぶ様實ハ似たり葉もさう同一  
実味ハ若く淡し根土ハ栗の根の如きこのを生ハ實ハ非  
凡虫の巢と白色の長さ虫ありこの巢をあかどう又あか  
どのあかどうともいふ

本草図譜  
卷之六





本草図譜

卷之...

...

一種

樹ありふると同く  
葉ありあけり  
大い実又曰



本草図譜

卷之...

...

榲桲

あけのこ









本草図譜  
卷之六  
廿五

一種

しろあざ

葉前條ハ似テ  
薄く鋸齒モ  
ま々の如し



一種

葉又前条  
より大なり  
との



本草図譜  
卷之六  
廿二





本草図譜  
卷之六  
七

一種

葉前條より  
小ちりの



一種

こしる

葉ちりよりより大なりて  
狭く長く秋月紅色に  
なり落葉は此実本条  
小云榊実より大く円く  
て殼ありて橡子の如し



本草図譜  
卷之六  
七







大葉標  
釋名

葉ハ冬ニ落ク似テ冬ノ季ノ  
 秋月黃福ニ変リ落葉セ  
 リテ新芽を生ジク至  
 落ク春月赤葉の間ニ穂を  
 形像ニ似トシク長ク故ニ月ノ

本草圖譜卷之六十七目錄

果部 夷果類

荔枝	同	同	同	同	同	同
葉		同上	物印托小載了圖			
一	同	同	同	同	同	同
初生	實	同上	龍眼	實	大葉	
二	三	四	五	七	九	

本草圖譜  
 卷之六十七目錄

本草圖譜  
 卷之六十七  
 七

